山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7
TEL　0551-32-7355　　FAX　0551-32-7350
E-mail　hoshinosato@mx5.nns.ne.jp
URL　http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/index2.html

社会福祉法人八ヶ岳名水会　情報紙

平成 24 年 5 月発行

虹（にじ）いろ

春

リレー題字：小尾栄子さん　絵：飯野　恵さん

社会福祉法人八ヶ岳名水会の今後に向けて

―地域生活支援のこれからの在り方を考えて―

八ヶ岳名水会副統括施設長　小泉　晃彦

平成四年に入所更生施設「星の里」を運営する法人としてスタートした八ヶ岳名水会の活動もいよいよ二十年目に突入しました。地域の方々や関係機関との協力の中、一人一人の地域での生活ニーズに応えるべく構築してきた支援体制も、より豊かな生活が送られるよう転換期を迎えています。

平成二十四年度は、名水会始まって以来の大きな人事異動がありました。法人内の課題整理と今後の地域ニーズに向けての展開を考えての大きな決断です。まだ、落ち着いてはいませんが、法人職員全体で前向きに取り組んでいきたいと考えています。

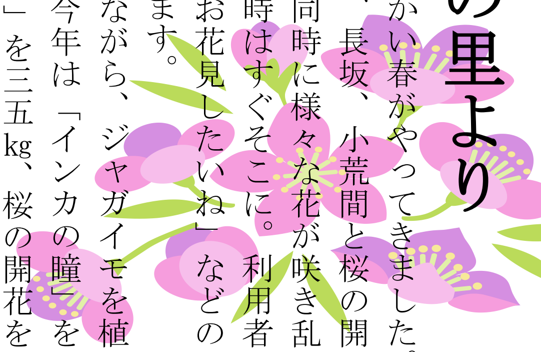
その中で、今後三年間の中で重点的に取り組んでいきたい内容があります。一つ目は、新たな通所支援施設の開所です。地域に行き場のない方を作らないため、新たな支援施設の開所を目指しています。もう一つは「星の里」の定員削減と新たなケアホームの開所です。一人一人の安定した地域生活の継続のために入所施設の役割と内容を見直していく取り組みです。最後は、生活支援センターの再整備と相談支援体制の構築です。これには、法人全体で新たな地域支援体制を考えていく必要があります。

いずれの取組みも、法人職員一人ひとりの協力と前向きな行動力に託されています。様々な課題はありますが、職員皆で議論し作り上げていきたいと思います。

総合支援法と権利条約が見えてきました。今を振り返りながら、二十年目のスタートを切りたいと思います。

桜舞う春　＝春二題＝

星の里より



小荒間にも暖かい春がやってきました。韮崎から日野春、長坂、小荒間と桜の開花が北上。桜と同時に様々な花が咲き乱れ、百花繚乱の時はすぐそこに。利用者の方々からも「お花見したいね」などの声が聞こえてきます。

　昨年は桜を見ながら、ジャガイモを植えていました。今年は「インカの瞳」を五kg、「男爵イモ」を三五kg、桜の開花を皆が心待ちにしながら植えています。

　畑では、うねを立て、堆肥を運び入れ、燻炭を入れました。作物は土が良くなければ良いものが出来ません。土づくりは丁寧に行います。もちろん有機栽培です。今回は堆肥だけのうねと、堆肥と燻炭を入れたうねを作り、出来栄えの良かった方を来年からは取り入れていこうと、試行錯誤の日々は、楽しみの日々でもあります。堆肥に土をかぶせ、種イモの植えつけとなります。

　星の里を利用している方々は農業では遥かに私より大先輩で、教えてもらうことが沢山あります。農作業は、新任職員にとって試練の始まりなのです。

　星の里から歩いて二分。目の前に建物があります。名付けて、〝「楽一」〟七〜八年前まで中華飯店であった空店舗を借りて、新たな活動場所の準備が始まりました。春の陽生活介護、菜の花生活介護、星の里生活介護を利用されている高齢の方々ならびに、自立度の高い方々のニーズに応える為に、「集いの場」としてここを借りました。

　しばらく使っていないのでみんなで畳や床を拭き、破れた障子をはり替え、シンクやテーブル、ガス台と少しずつ買いそろえています。皿や丼ぶり等の食器類、座布団は前にお店をしていた方が、そのまま、使っていいよ。と、置いていってくれました。

すでに高齢の方々は大豆、黒米等の選別を和気あいあいと進めており、お茶を飲みながら、ゆったり、まったり、のんびり。ゆくゆくは地域の方々も散歩の行き帰りなどお寄りいただき、話に花を咲かせていただくつもりです。一方、既に「豆の花」でのうどん打ちにチャレンジ中の利用者さんの就労の場としても予定しています。

六月まで環境整備を行い、準備が整ったところで食堂として開店。「楽一」ではお惣菜の販売と、うどんを提供する予定です。地域の方々からは、早くも、「小荒間には、ゆっくり飲める所がないから、そういう店にもしてくれ！」という声もかかっており、地域ニーズにも応えていくつもりであります。

　「楽一」の二階は、二〜三人の暮らしが可能なスペースと環境が整っているので、グループホームへ移行する方々の自活訓練や、緊急の際のお泊り場所、定期的短期入所のトレーニング場所、地域生活定着支援センター利用後の自立準備ホームとして等々、いくつかの要望が出ています。入所施設に近い事や、北部の生活支援チームに近い事などの利点を考慮して、有効活用して参ります。

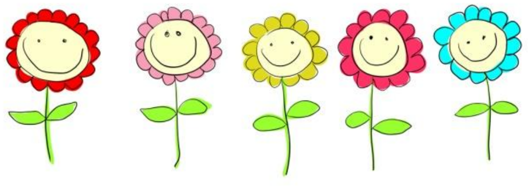
　―星の里　望月通信員―

笑顔で挨拶

世話人　輿水美津子

「施設の入居者さん達と一緒に、草取りをしんけぇ」と友人であるスタッフの言葉に誘われ、それなら私にもできるかも知れないと思ったのが八ヶ岳名水会で働く第一歩でした。あれからもう十年になります。

星の里への初日、緊張した面持ちで玄関を入った瞬間、「おはようございます」と、大きな声で迎えてくれたのは、入居者さんでした。どんな方々が生活しているのだろうかと、恐怖心もあり、不安でしたが、この元気な笑顔の挨拶で、心が和み、緊張感がとけて、ホッとした気持ちになったのを、今でも覚えています。挨拶は、人を元気にしてくれる言葉で、だれでも笑顔になります。おかげで星の里での気持ち良い仕事のスタートを切ることが出来ました。星の里の仕事をしながら、世話人の仕事も始まり、名水会第一号のＧＨ「北斗の家」が、私の世話人としての出発地でした。「解らん事があったら入居者のＴさんに聞けば、何でも教えてくれるから」の言葉通り、ＧＨでの大先輩のＴさんは、頼もしい助人でした。お陰様で入居者さん達と信頼関係も出来る様になり、「今日のご飯はうまかったよ」の言葉に、世話人としての、喜びを感じながら、一層頑張ことが出来ました。その後、ＧＨ陽だまり荘にも入る様になりました。ＧＨというのは、とても難しい職場ですが、日々信頼関係を作る為、笑顔で挨拶をし、入居者の話を「聞く」のではなく「聴く」様に心掛けて来ました。健常の人と同じ様に、当たり前のありふれた生活が出来る様に、時には誉め、時には戒め、一人一人と母親のごとく自立に向けて接してきました。今では、お互い意見を言い合える仲にもなった、一人立ちの準備をしている入居者もいます。今までに、巣立った子供達が、元気な姿で笑顔の挨拶で訪ねて来た時は、苦労も宝物になります。世話人をしていて本当に良かったなあと思います。これから今居る入居者が自立するまで頑張れたらいいなと願っています。



このコラムは八ヶ岳名水会で働く、各事業所の職員が、交代で執筆していくコーナーです。

『いま、虐待を考える』

研修会を傍聴して

鈴　木　信　行

○この度山梨県知的障害者支援協会後援の「今虐待を考える」の研修会を傍聴する機会を得ました。

【シンポジスト】

玉井邦夫氏（大正大学人間学部心理学科教授　財団法人日本ダウン症協会理事長）

土屋幸己氏（静岡県富士宮市保健福祉部福祉総合相談課参事地域包括支援センター長）

中恵美氏　（石川県金沢市お年寄り地域福祉支援センターとびうめセンター長）

宮下智氏　（長野県知的障害福祉協会会長明星学園　第二明星学園総園長）

山西孝氏　（山梨県知的障害者支援協会会長　三富福祉会理事長）

【日時】　平成２４年３月３日

【場所】　山梨県立文学館講堂

【参加人数】　３５０名

○当研修会に参加する前には障害者を支援する施設でそこの職員が施設利用者に対して虐待をおこしているとは思ってもいませんでした。しかし現実には多くの虐待が行われているとのことでした。それは次のとおりでした。

※利用者に高圧的な指示をだす。

※指示に従わないからと、叩いたりつねったりする。

※「あほ」「ばか」とののしったり、笑いものにしたりする。

等々です。

そのような虐待の状況の中で、対策の具体策の第一歩として「障害者虐待法」が平成24年10月より施行されることになりました。

【研修会を傍聴した後の感想】

虐待にはいろいろ様々であり、その背景には複雑で是非を結論するには非常に難しいことが分かりました。又その改善策にも人智の集約が要求されることがわかりました。これからも今回のような開かれた研修会を開催していただき、多くの方々が参加し、虐待の真実を理解させていただくことが必要と痛感させられました。尚、障害者の保護者個人としては日頃親心として「しつけ教育」をしがちですが、この「しつけ」も見方によっては虐待の範囲に入るとの意見もあり、動機が善意からだと言うことの、親の強権発動も充分再検討せねばならぬと思いました。

（　保護者　）

共に暮らす地域の創造と実現　＝ノーマライゼーション

〈八ヶ岳名水会　今後の事業展開・・本人に合った地域生活。 地域ニーズに応える。・・・年次を追っての課題と整備〉

―新たな取り組み・整備事業・体制・財源・プロジェクト等―

事業所 ＼ 年次	平成23年度（2011年）	平成24年度（2012年）	平成25年度（2013年）	平成26年度（2014年）
星の里	○ニーズに沿った事業の検討準備 菜の花活動場所拡張準備 ①日中活動の再編成 ・新たな生活介護 ・就労系の再編成 （移行と働く場所） ・高齢化の日中活動 ②居宅系 ・地域ニーズ ・短期入所の拡充と再編	・北部ケアユニットの再編 （星の里と北部ケアホームをチーム化） ・新作業棟（集いの場）開設 ・ケアホーム設置改修補助金申請へ ・自立準備ホームの開設 ・老朽化箇所の改修・整備	・星の里夜勤3人体制へ （ケアホーム体制への移行準備）	・ケアホームの新規開設（ユニット） ・入所定数の削減（50名 から　40名） ・短期入所の増設 （継続して生活できる環境へ）
春の陽		・生活介護の新ユニット開始 （活動準備グループのスタート） ・就労移行チームの強化 ・就労継続A型の検討 ・第二春の陽の準備　検討 ・生活支援チームとの連携体制強化	・新たな通所施設の開始 （春の陽の定員増又は新規） ・A型事業の開始予定（25年度～26年度） →	2年間をかけて環境整備へ
菜の花	・入所定数減とグループホーム ケアホームの拡充、再編 （高齢化対策） ・GH　CHユニット再編 （50名 → 40名）	・新たな活動場所の開設（プレハブ） ・医療的ケアの研修強化 ・防災拠点スペースの申請 ・生活支援チームとの連携強化 ・30名→20名　定員再編	・新たな活動拠点を踏まえ活動の再編へ →	防災拠点機能を持った活動場所の設置へ
陽だまり	○個別支援計画作成　義務化（相談支援専門員） ○相談支援関連と各ケース取り組み ○各事業での居宅支援関連 ①合同連絡会とケース連携の在り方 ②相談支援の在り方と連携 ③書式と個別支援計画の在り方	・相談支援チームの構築 （市相談と専門相談） ・GH、CHの再編 （中部、南部チームのチーム化） ・居宅、移動支援の体制強化 （日中活動支援との連携） ・自立準備ホームの開設	・北杜市韮崎市の基幹センター化を踏まえた体制 ・生活に合わせた支援体制 （アパートの活用）	・地域生活に合わせたチーム化
法人総務	○法人事務局強化、雇用整備等 ・法人の今後を考える ・情報整理と収集　・後援会強化 ・20周年記念プロジェクト		○　法人設立20周年記念イベント年	
連携法人 NPOゆい	○成年後見準備委員会発足	9月 ○成年後見制度（法人後見運用開始）		
連携法人 NPO杜の風	○成人の通所検討	○児童発達支援センターへ	○成人通所の開設	
北杜市	○10月北杜市障害者総合支援センター	○北杜市相談支援事業（委託） Ⅱ型（地域活動と相談支援等）開所 ○就業・生活支援センター ○基幹センター準備へ		
韮崎市	○韮崎市相談支援事業（委託）	○韮崎市相談支援事業（委託）	○韮崎市相談支援事業見直し （基幹センターへ）	
山梨県	○10月GH・CH家賃補助開始 ○11月山梨県地域生活定着支援センター開設（委託事業） （矯正施設退所後福祉サービスを必要とする人々の為の相談支援事業）	・相談員2名増員 ・自立準備ホームの開設		
法制度	○障害者基本法改正案（プログラム法案） ・1～3月　：　第二期作業チーム ・4～7月　：　新法の骨格整理 ・8月　　：　新法の骨格提言 ・12月　　:自立支援法つなぎ法施行	○2/8自立支援法継続（名称を改める、若干の見直し） ○10月障害者虐待防止法施行	○4月障がい者総合支援法施行 ○障害者差別禁止法施行予定	

①応能負担の原則
②発達障害を対象とする
③相談支援の充実
④障害児支援の強化
⑤GH・CHの助成
⑥重度視覚者移動サービス

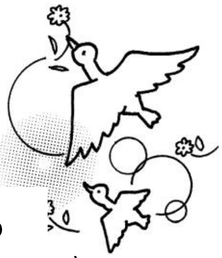
平成24年度八ヶ岳名水会事業計画が動き出しました。

ここでは、昨年度から続く事業展開の本年度の計画そして25，26年度へと続く方向性をお知らせ致します。

○11/15・16
関東地区知的障害者関係職員研究大会
プレ山梨大会（北杜市）

○　7/　関東地区知的障害者関係職員研究大会
山梨大会（甲府市）
・栃木県の代替として再度実施

ちょっと ひといき



春が訪れるのが遅かった今年も、あっという間に桜の見ごろを過ぎ、暖かく過ごしやすい毎日となりました。

ところで「春」といえばみなさんは何を思い浮かべるでしょうか？私はこの季節になると「タラの芽」を思い出さずにはいられません。好きな方も多いのではないのでしょうか。

今回はそんな私の好物「タラの芽」についてお話ししたいと思います。

●山菜の王様　タラの芽●

タラの芽はタラノキの若芽です。葉が開く前の10cm程度に伸びた新芽を摘み採り食します。天ぷらやおひたしとして食べるのが一般的です。

タラの芽は、冬の厳しい寒さを乗り越え、芽を出したところを採集するので栄養価の高い山菜です。糖分やアルコールの吸収を抑制し、食後の急な血糖値の上昇を防ぐ成分であるエラサイドや、腸内の善玉菌の増殖を促進し腸内環境を整え、コレステロールや腸管内老廃物を排出してくれる食物繊維が多く含まれています。なので、糖尿病や動脈硬化などの生活習慣病予防やガン抑制といった効果も期待できます。

●タラの芽を使って●

天ぷらが一般的なタラの芽ですが、今回は「酢味噌和え」をご紹介します。

材料：タラの芽（適量）味噌、砂糖（各大さじ１）酢（大さじ２）

①タラの芽のハカマ部分を切り落とし、しっかり洗う

②沸騰したお湯で３分ほど湯がいて、冷水にさらし、水気を切る

③味噌、砂糖、酢を混ぜ合わせておく

④タラの芽が大きい場合は、食べやすい大きさに切り、②と合わせて完成！

調味料はお好みで調整して下さい。タラの芽の苦さと、酢味噌の甘酸っぱさがとても合い美味しいと思います。

春しか食べられない絶品のタラの芽、いろいろな方法で美味しく召し上がってみてはいかがでしょうか。

ホームページをリニューアルしました

この度、八ヶ岳名水会のホームページが新しくなりました。各事業所での取り組みや利用者さんの活動や生活内容等を紹介しています。また、ブログでは各種イベントや行事の様子を随時お伝えしていきます。情報誌「虹色」と共に、元気と笑顔あふれる旬の情報をお届けしていきます。

(http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/)

右のホームページアドレスを直接入力していただくか,「八ヶ岳名水会」や「名水会」とワード入れて検索(こちらのほうが簡単です♪)していただければ,簡単にご覧いただくことができますので,ぜひ気軽に覗いていただければと思います。

上記方法で入力していただくと，このトップページが出てきます。ここから，各事業所や過去の広報誌，イベント情報などタイムリーにご覧いただけます。

ご報告

諸団体様からの補助金・助成金に後援会費
寄付金をプラスして購入した物品や改修した設備です

春の陽

社会福祉法人
山梨県共同募金より
チェンバー型
真空包装機

社会福祉法人
山梨県共同募金より
草刈機　８台

星の里

社会福祉法人
松の花基金より
一輪管理機

財団法人
山梨福祉財団より
浴室ろ過装置改修

菜の花

防災用ヘルメット

痰の吸引機

シャワーキャリー

社会福祉法人山梨県福祉財団より

ケアハウス　ランタン

山梨県特別交付金基盤整備事業より
消防機器改修（スプリンクラー）

ケアハウス　大坊

便洗器および手すり

網戸設置

社会福祉法人　山梨県福祉財団より
大坊改修工事
（手すり取り付け・浴室洗面台工事）

～ありがとうございました～

どの助成金や補助金にも皆、自己資金が必要な昨今。皆様からいただいた後援会費を自己資金として使わせていただき、実店の運びとなった今年度の事業です。感謝でいっぱいです。
ありがとうございました。

菜の花利用者活動作品展

「みえないことづけ」

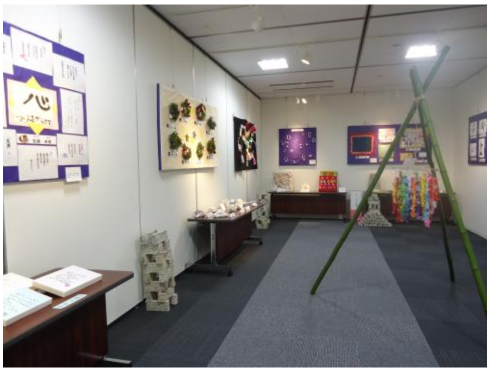
三月二十四日から三十日にかけて、韮崎駅前ニコリ内市民ギャラリーにて第二回作品展「みえないことづけ」を開催いたしました。

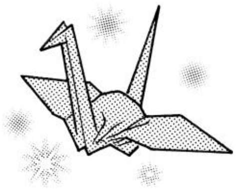
絵や自然の物を使用したリース、デザートカップを再利用したお雛様、紙粘土作品、書道作品など会場にセッティングすると会場の雰囲気もさらに賑やかになり、通りすがりの方が足を止めてくれる事もありました。

昨年よりも年齢層や客層がグッと広がり、開催中は多くのお客様が足を運んで下さいました。

作品を見て「素直な気持ちが絵から伝わってくる」「来年も楽しみにしています」など温かい声かけをしてくださったり、「どんな施設ですか？」と興味をもってくださったり・・・お客様との小さな交流が何よりも嬉しく感じられました。

作品展に来てくださった方、支えてくださった方々に菜の花一同感謝申し上げます。本当にありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。





しまちゃんの川柳コーナー

明日からの　一歩を今日に　歩き出す

種まいて　春一番の　風誘う

春が来て　夢と希望に　花咲かせ

打って抜く　だるま落としで　野球かな

春言えば　桜吹雪に　酒まかせ

しまちゃん・・川柳作りが趣味のグループホームにお住まいの方です。

訃報

ケアホーム大坊と菜の花利用者の**長田臣功（おさだしげかず）さん**が，三月二四日ご逝去されました。享年６９歳でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

題字を書いて下さった方

・・・**後援会　小尾栄子さん**

グループホーム「すばる」の世話人さんもしてくださっています。地域にお住まいで，力強い応援団のおひとり。

表紙絵を描いて下さった方

・・・**飯野　恵さん**（ガラス版画）

いつも明るく朗らかな恵さん。「にじいろ」の活動場所で豆腐や厚揚げの製品にシール（値札）張りをしています。

素敵な題字と絵をありがとうございました！

編集後記

創刊三号春号をお届けいたします。

平成２４年度八ヶ岳名水会事業計画が動き出しました。昨年度から継続していること、今年度より新たに検討すること・取り掛かること、とても沢山あります。

多くの方々のニーズを拾いあげて、計画にする。それを実行に移して形に作り上げたり、計画通りの動きをしたりする。まさに絵に描いた餅にならぬよう、スタッフ全員参加で動いています。

時代状況は、障害者福祉の世界だけでなく、世界規模での大変動が起きています。様々な状況に対応できるように事業運営することは、もはや、一法人の努力だけでは困難なのかもしれません。

されど、人は生まれ、人は生きます。たゆまず、希望を持ち、歩き続けたいと願う人がいる限り、朝には新しい虹いろの橋をかけて皆で渡っていきたいと思います。

（光）

報編集委員のメンバー

編集委員長　廣瀬政光(菜の花)

編集委員　坂本ます子　茂木洋輔　村居奈津美　望月杏沙美（以上星の里）　坂本むつみ（事務局）　立川　瞳（春の陽）　石田和江（菜の花）　清水めぐみ（陽だまり）

WEB 編集委員　徳川吉彦（星の里）　鈴木直子（事務局）　河西悠介（以上春の陽）　伏見祐司（菜の花）

社会福祉法人　八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL　0551-32-7355

FAX　0551-32-7350

E-mail　hoshinosato@mx5.nns.ne.jp

URL　http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/index2.html